

地域に生きる湧水？温泉？

湧水と同様に、地下などから湧き出した水で我々の生活に浸透しているものとして温泉があります。日本各地に様々な温泉があり、秩父地域にもいくつかの温泉が湧いています。

その中の一つに秩父市の上吉田地区に湧く鉱泉があります。鉱泉旅館として営業しているものもありますが、個人所有の井戸からも湧き出しています。

所有者の中島幸雄さんの話によると、硫黄臭のする井戸水は昔から「くすり水」という呼称で愛され、できものができたときは、この水をつければ治るといわれていたそうです。また、農閑期には近所の人がこの水を沸かして、温泉気分を味わっていたそうです。

この井戸水は何十年の間枯れずに湧き続け、近所の人は今もこの水を家に引き込み、入浴に利用しているということです。



■ 武甲山伏流水

龍神様の
の
恵み!?

武甲山は、日本武尊が登山されて武具・甲冑を岩蔵に納め、東征の成功を祈ったことが山名の由来という伝説があり、古くから秩父の人々に伝承されています。

山の北側斜面は石灰岩質で、明治期からセメントの原料として採掘が始まり、秩父地域の発展に大きな役割を果たしてきました。

この山に降った雨は地中深く浸み込み、自然に濾過された水が伏流水として秩父市内のあちらこちらから湧き出し、生活用水や清酒の製造などに利用されるなど、秩父地域の暮らしや伝統文化に重要な役割を担ってきました。

今回の調査では詳しく調べることができませんでしたが、その一部についてご紹介します。

なお、武甲山伏流水は、平成20年6月に環境省選定の「平成の名水百選」に選ばれました。

